

第 3 環境マネジメント(EMS)の 構築・運用

環境マネジメントシステム（EMS）の構築・運用

(1) EMSの構築の取組み

環境科学研究所では、環境保全や環境改善のために、より一層積極的に行動し、その活動を市民や市内事業者へと拡大していくため、ISO14001の認証を取得することにしました。平成14年4月には、所内に環境管理体制を整備するとともに、試薬管理、関係法令調査、環境影響評価などEMSの構築に着手しました。また、同年8月には、所長による認証取得宣言を行い、その後、環境方針の策定、手順書などを作成し、12月から本格的にEMSの運用を開始しました。

(2) ISO14001の取得

平成14年度におけるEMSの構築、運用の実績に基づき、平成15年4月から環境管理の国際規格であるISO14001の認証審査を受け、平成15年7月24日認証取得しました。（認証登録機関：日本検査キューエイ（株）北九州市役所では本庁舎に続いての取得となります。

これまでの省エネ・省資源、リサイクルを中心としたものだけでなく、当所の本分である試験検査、調査研究、国際貢献等についても環境目的・目標を設定して運用しており、全国的にも特徴のあるものとなっています。

平成17年度には、第2回定期審査及び2004年度版への規格変更に伴う移行審査を受け、運用を実施しています。

(3) EMSの運用効果

EMS運用開始前の平成14年度と開始後の17年度で経費を比較すると、約324万円の経費節減効果がみられました。

表1 経費節減額

項目	平成14年度			平成17年度			平成17年度－平成14年度		
	使用量	単位	金額 (千円)	使用量	単位	金額 (千円)	使用量	単位	金額 (千円)
電気	1,116,120	kwh	20,807	1,116,354	kwh	17,662	234	kwh	△3,145
ガス	49,672	m ³	6,705	54,848	m ³	7,510	5,176	m ³	805
水道	6,309	m ³	3,794	5,338	m ³	3,169	△971	m ³	△625
コピー	171,619	枚	573	103,356	枚	318	△68,263	枚	△255
ガソリン	810	L	80	450	L	52	△360	L	△28
天然ガス	389	m ³	35	510	m ³	46	121	m ³	11
計			31,994			28,757			△3,237

1 基本理念

今日の環境問題は、身近な環境問題から、地球温暖化など地球規模の問題まで、複雑、多様化しており、新たな対応が求められています。

北九州市は、環境保全行政全般の行動計画となる「アジェンダ 21 北九州」を策定し、さらに、環境行政の指針となる「北九州市環境基本条例」を制定し、持続可能な環境利用と快適な都市環境の創出に取り組んでいます。

北九州市環境科学研究所は、市の環境保全、保健衛生を担う研究所として、市民や市政のニーズに的確に応える信頼される研究所を信条に、条例の基本理念に基づき、「市民の安全と快適を追求する研究所」、「地域と次世代に貢献する研究所」をスローガンに環境マネジメントシステムを構築します。これに従い、地域環境の保全と創造はもとより地球環境の保全に貢献する試験検査、調査研究に鋭意取り組むとともに、率先して、研究所の事業活動に伴う環境への負荷を低減する活動を継続的に行い、さらに市民・事業者の環境保全への取り組みに対して支援を行い、北九州市が目指す「世界の環境首都」の創造に向け、積極的に役割を果たします。

2 基本方針

北九州市環境科学研究所は、環境行政並びに保健衛生行政を支える研究機関であることを踏まえ、以下の方針に基づき環境管理を行います。

- (1) 環境保全に役立つ調査研究を推進します。
- (2) 環境関連の法律、条例等を遵守します。
- (3) 有害化学物質による環境汚染を防止するため、薬品類の適正な使用と管理を行います。
- (4) 環境への負荷を継続的に低減するため、省エネルギー、省資源及び廃棄物の削減、リサイクル並びにグリーン購入を推進します。
- (5) 市民はもとより広く内外に、環境問題改善のために有益な研究成果や環境保全に関する情報を提供します。
- (6) 上記のことを達成するため、環境目的と目標を定め、見直しを行いながら、汚染の予防と防止に努め、環境マネジメントシステムの確実かつ継続的な改善を図ります。

Kitakyushu City Institute of Environmental Sciences
Environmental Policy

1. Overview

The diverse and complex environmental issues we face today, which range from local pollution issues to universal hazards such as global warming, require novel approaches. Therefore, the City of Kitakyushu established “Agenda 21 Kitakyushu” as the general guideline of its environmental conservation policies, and the “Kitakyushu City Environmental Basic Ordinance” to act as a guide in the establishment of sustainable resource practices and in the maintenance of a livable urban environment.

Kitakyushu City Institute of Environmental Sciences is a research facility charged with environmental conservation and the maintenance of a hygienic environment for the citizens of Kitakyushu and holds to the principle of being a reliable institute to precisely meet the needs of citizens and the municipal government. In accordance with its foundational slogans of “in pursuit of a safe and livable environment” and “contributing to the region and future generations,” the Institute will devise an environmental management system. Based on this, the Institute will conduct testing and research applicable both locally and elsewhere in order to contribute to environmental conservation efforts worldwide; will continually take the initiative to reduce environmental burdens resulting from our activities; will support citizens and businesses in their environmental conservation efforts; and will play an active role in bringing Kitakyushu closer to its goal of becoming the “environmental capital of the world.”

2. Fundamental Policy

Kitakyushu City Institute of Environmental Sciences is a research institute that supports the city’s environmental and health administration by carrying out environmental management based on these policies:

- (1) Promoting investigations and research useful in environmental conservation.
- (2) Following environmental laws and ordinances
- (3) Properly using and disposing of toxic chemicals in order to prevent the environmental pollution they can cause.
- (4) Promoting environmentally conscious purchasing and recycling in order to reduce resource consumption and waste disposal.
- (5) Providing information related to our research results and environmental conservation to citizens and concerned parties within and beyond the city.
- (6) Setting and revising targets and goals to create an effective and ever-improving environmental management system reduces and prevents pollution.